



Operations Manager i

ソフトウェアバージョン:10.60

リリースノート

ドキュメントリリース日 :2017年1月

ソフトウェアリリース日 :2017年1月



Hewlett Packard
Enterprise

利用条件

保証

Hewlett Packard Enterpriseの製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限り、本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。Hewlett Packard Enterpriseは、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピューターソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、Hewlett Packard Enterpriseからの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および12.212に従って、商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HPの標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

著作権情報

© 2016~2017年 Hewlett Packard Enterprise Development LP

商標

Adobe® およびAcrobat® は、Adobe Systems Incorporatedの商標です。

AMD、AMDの矢印記号、およびATIは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Citrix® およびXenDesktop® はCitrix Systems, Inc. および/またはその子会社の登録商標で、米国特許商標庁およびその他の国で登録されている可能性があります。

Google™ およびGoogle Maps™ は、Google Inc. の商標です。

Intel®、Itanium®、Pentium®、およびIntel® Xeon® は、Intel Corporationの米国およびその他の国における商標です。

iPad® およびiPhone® は、Apple Inc. の商標です。

Javalは、Oracleおよびその関連企業の登録商標です。

Linux® はLinus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft®、Windows®、Lync®、Windows NT®、Windows XP、Windows Vista®、およびWindows Server® は、Microsoft Corporationの米国およびその他の国の登録商標または商標です。

NVIDIA® は、NVIDIA Corporationの米国およびその他の国における商標および登録商標です。

Oracleは、Oracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。

Red Hat® はRed Hat, Inc. の米国およびその他の国の登録商標です。

SAP® は、SAP SEのドイツおよびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX® はThe Open Groupの登録商標です。

文書の更新

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、次のURLにアクセスしてください。 <https://softwaresupport.hpe.com/>

このサイトを利用するには、HPE Passportへの登録とサインインが必要です。HPE Passport IDを登録するには、HPEソフトウェアサポートサイトで **[登録]** をクリックするか、HPE Passportのログインページで **[アカウントを作成]** をクリックします。

該当する製品サポートサービスに登録した場合、更新版または最新版を受信することもできます。詳細については、HPEの営業担当にお問い合わせください。

サポート

次のHPEソフトウェアサポートサイトを参照してください。 <https://softwaresupport.hpe.com/>

ほとんどのサポートエリアでは、HPE Passportユーザーとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HPE Passport IDを登録するには、HPEサポートサイトで **[登録]** をクリックするか、HPE Passportのログインページで **[アカウントを作成]** をクリックします。

アクセスレベルの詳細に関しては次を参照してください。 <https://softwaresupport.hpe.com/web/softwaresupport/access-levels>

HPE Software Solutions Nowは、ソリューションおよび統合ポータルWebサイトにアクセスします。このサイトでは、ビジネスニーズを満たすHPE製品ソリューションを調べることができます。このサイトには、HPE製品間のすべての統合に関するリスト、ITILプロセスのリストが含まれています。このWebサイトのURLは <https://softwaresupport.hpe.com/km/KM01702731>です。

コンテンツ

Operations Manager i リリースノート	4
OMI 10.60のインストール	5
OMi 10.60の新機能	6
OMi	6
OMiパフォーマンスダッシュボード	7
OMi 10.60 で変更された機能	8
注意事項および制限事項	9
アップグレード/更新	9
OMi	11
OMiパフォーマンスエンジン	13
Operations Agent	13
ローカリゼーション	15
ドキュメントのフィードバックの送信	17

Operations Manager i リリースノート

ソフトウェアバージョン:10.60

発行日:2017年1月

本書は、Operations Manager i (OMi) 10.60 に加えられた変更点の概要です。

本書では、次の内容について説明します。

- 「OMi 10.60のインストール」(5ページ)
- 「OMi 10.60の新機能」(6ページ)
- 「OMi 10.60 で変更された機能」(8ページ)
- 「注意事項および制限事項」(9ページ)

サポートマトリックス

サポート対象環境やほかの製品との互換性については、Operations Manager i サポートマトリックスを参照してください。サポートマトリックスはリリースの公開前後に更新される場合があります、次のHPEサポートWebサイトでのみ入手できます。

<https://softwaresupport.hpe.com/km/KM323488>

OMI 10.60のインストール

Operations Manager i 10.60のインストールファイルが、zipファイルとして提供されています。このパッケージは、インストールファイルの一部として、またはソフトウェアサポートオンラインポータルで入手できます。

Operations Manager iのインストールまたは更新手順については、『OMiインストールとアップグレードガイド』を参照してください。

1. OMi 10.60のインストールファイルとドキュメントが含まれている.zipファイルを解凍します。
2. [Documentation] フォルダを開きます。
3. OMi_10.60_Installation_and_Upgrade_Guide.htmをダブルクリックして、『OMi 10.60インストールとアップグレードガイド』をWebブラウザで開きます。

または、ソフトウェアサポートオンラインからOMi 10.60の『OMiインストールとアップグレードガイド』をダウンロードします。

アップグレード: OMi 10.01または10.1xからアップグレードできます。インプレイスアップグレードとサイドバイサイドアップグレードの両方の方法がサポートされています。

インストール、アップグレード、および更新と、OMiのハードウェア要件およびソフトウェア要件の詳細については、『OMiインストールとアップグレードガイド』を参照してください。

OMiパフォーマンスエンジンの更新: OMiパフォーマンスエンジン10.11または10.12を使用していて、現在10.60バージョンを使用する必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. 旧バージョンのパフォーマンスエンジンをアンインストールします。
2. OMiパフォーマンスエンジン10.60をインストールします。
3. 任意指定: 旧バージョンのOMiパフォーマンスエンジンでVerticaデータベースを使用していた場合、新しくインストールしたOMiパフォーマンスエンジン10.60でVerticaデータベースを設定します。Verticaに以前格納されたデータは、OMiパフォーマンスエンジン10.60で使用できます。

注: 旧バージョンのOMiパフォーマンスエンジンのアンインストールおよびOMiパフォーマンスエンジン10.60のインストールの詳細については、『OMi Performance Engine Installation and Configuration Guide』を参照してください。

OMi 10.60の新機能

OMi

OMi (Operations Manager i) は簡略化された統合 IT オペレーション管理ソフトウェアです。OMi は自動化された監視、迅速な根本原因特定と優先順位付け、および自動化された修正アクションを提供します。

HTML5 イベントブラウザ。 新しい HTML5 バージョンの OMi イベントブラウザコンポーネントにより、再設計されたコンテキストパネル、カラムのピン留め機能、最も重要な属性を1つのページで確認できるイベント詳細ペインなどの新機能を利用できます。旧バージョンのイベントブラウザコンポーネントの一部の機能は、新しい HTML5 イベントブラウザではまだ使用できません。そのため、Adobe Flash ベースの従来のイベントブラウザコンポーネントを、事前定義されたすべての [マイワークスペース] ページで引き続き使用できます。詳細については、『OMi 管理ガイド』を参照してください。

新しいフィルターマネージャー。 イベントブラウザおよびさまざまな管理インターフェイスで使用される新しい HTML5 フィルターマネージャーでは、フィルター作成のワークフローが大幅に改善されています。入力を開始するとすぐに、自動補完機能がフィルターの検索をサポートしてくれます。Enter キーを押すだけで項目を選択したり、ドラッグアンドドロップで項目を再配置したりすることができます。カテゴリに基づいてフィルターを共有できるようになりました。また、ある領域から別の領域に、つまり他のユーザーに送信する電子メールにもフィルターをコピーできます。新しいフィルターマネージャーを使用すると、ETI 値やカスタム属性をフィルター処理することもできます。詳細については、『OMi 管理ガイド』を参照してください。

HTML5 管理ユーザーインターフェイス。 主要な管理インターフェイスの多くが HTML5 に実装され、HPE の最新のルックアンドフィール、簡略化された外観とワークフロー、より迅速で滑らかなユーザーエクスペリエンスが提供されるようになりました。特に、サービス状況のユーザーインターフェイスはすべて再設計および再実装され、ユーザビリティが向上しています。詳細については、『OMi 管理ガイド』を参照してください。

サービス状況ステータスの REST Web サービスインターフェイス。 サービス状況ステータスの REST Web サービスインターフェイスにより、インテグレーターは CI またはビューの状況情報 (CI ステータス、HI、KPI) をリモートで取得することができます。このインターフェイスでは、1つの CI ID、CI 名、ビュー名、またはグローバルな CI ID を使用してクエリを実行できます。詳細については、『OMi 拡張性ガイド』を参照してください。

ドキュメント Web ポータル。 ほかの HPE ソフトウェア製品のオンラインヘルプだけでなく、OMi オンラインヘルプも、新しいソフトウェアドキュメントポータルで使用できるようになりました。ポータルにアクセスするには、docs.software.hpe.com にアクセスします。これまでのように、ソフトウェアサポートオンラインではすべてのドキュメントを入手できます。

Operations Bridge Analyticsの例外イベント。 Operations Bridge Analytics (以前のOperations Analytics)を設定して、例外が検出されたときにOMiにイベントを送信できるようになりました。詳細については、『OMi統合ガイド』を参照してください。

Operations Agent 12.02。 OMi 10.60では、Operations Agentバージョン12.02が管理サーバーに自動的にインストールされます。新しいOAでは、対象となるプラットフォームの拡大、OMiサーバーがダウンしたときにインストール通知をバッファに格納する機能が提供されます。

OMiはChromeをWebブラウザーとしてサポートします。 現在、Google ChromeはOMiのWebブラウザーとして正式にサポートされています。既知の制限事項については、[サポートマトリックス](#)を確認してください。

OMiパフォーマンスダッシュボード

リアルタイムデータおよび履歴データの結合ビュー。 OMi 10.60から、OMiパフォーマンスダッシュボードを使用してリアルタイムデータと履歴データを同時に表示できるようになりました。グラフ内のリアルタイムアイコンをクリックすることで、どのダッシュボードでも各グラフの結合ビューを切り替えることができます。この機能を使用するには、エージェントのリアルタイムライセンスを有効にする必要があります。詳細については、『OMiユーザーガイド』を参照してください。

PDFへの印刷。 OMiパフォーマンスダッシュボードは、ダッシュボードをPDF形式で開く、または保存するオプションを提供しています。PDFにはダッシュボードの名前、起動元のCIの名前、作成された日時などの詳細情報が含まれます。

CI比較用のOpsBridgeデータストアのサポート。 CI比較機能を使用して、OpsBridgeデータストアに格納されているメトリクスを比較できるようになりました。

OMi 10.60 で変更された機能

プロセスおよびサービスのモニタリングが簡略化されました。 サービスプロセスモニタリングポリシーのテンプレートで、インスタンスパラメーターをプロセス名として使用できるようになりました。割り当て時に、実行するプロセスと回数を定義できます。詳細については、『OMi管理ガイド』を参照してください。

イベントWebサービス。 イベントWebサービスをクエリするときに、起点サーバーと送信サーバーをフィルター処理できるようになりました。詳細については、OMi拡張性ガイドを参照してください。

ユーザーエンゲージメントはサポートされなくなりました。 OMiのユーザーエンゲージメント機能 (バッジやエキスパートボードなど) は、OMi 10.60ではサポートされなくなりました。ただし、[OMiの発見] ページは引き続き使用できます。

OMi WebサーバーとしてのIISはサポートされなくなりました。 IISはOMi Webサーバーとしてサポートされなくなりました。OMi 10.60では、OMiと一緒にインストールされたApache Webサーバーが自動的に使用されます。

注意事項および制限事項

問題および制限事項は、変更要求番号 (QCCR) で示されます。公開されている不具合の詳細については、<http://softwaresupport.hpe.com>にアクセスするか、HPEサポート担当者へ直接お問い合わせください。

アップグレード/更新

タイトル: OMiバージョン10.11 IP1がインストールされたことがあるシステムからOMi 10.60にアップグレードしようとするとき失敗します (OMi 10.11 IP1の後にOMi 10.12などの以降のバージョンがインストールされている場合も同様です)。 (QCCR8D52227)

説明: OMiバージョン10.11 IP1のパッチが適用されているOMiシステムは、以降のバージョンのOMiやパッチが10.11 IP1の後にインストールされている場合でも、OMi 10.60へのアップグレードに失敗します。

回避策: OMi 10.11 IP1システムをOMi 10.60にアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. アップグレードスクリプトを実行します。これにより、すべての10.xパッチがアンインストールされます。OMi 10.10の削除は失敗します。
2. <OMi_HOME>/Uninstall/に含まれているすべてのフォルダーを削除します。
3. 次の2行を置き換えることで、インベントリファイルのinstallation/dat/product.xmlを修正します。

```
<current_version>10.11</current_version>
```

```
<previous_version>10.11</previous_version>
```

次の行で置き換えます。

```
<current_version>10.10</current_version>
```

```
<previous_version>10.10</previous_version>
```

4. アップグレードスクリプトを再実行します。

タイトル: Postgresリモートを使用したOMi 10.10から10.60へのアップグレード中に、ODBの起動に失敗します。 (QCCR8D51891)

説明: OMi 10.10から10.60へのアップグレード時に、ODBを起動できません。ログのodb_boot.logには、次の行が繰り返し表示されます。

SEVERE: postgresql_rtsm: failed removing row 1: java.io.EOFException; please delete it manually

回避策: アップグレードウィザードを実行するときは、OMiを起動する前に次の手順を実行します。

1. PostgreSQLのrtsm/odbデータベースに接続します。接続には、PostgreSQL CLIのpsqlを使用します。
2. 接続されたら、次のSQLステートメントを実行します。

```
DELETE FROM HA_WRITER;  
  
DELETE FROM JGROUPSPING;
```

3. データベースから切断し、OMiを起動してアップグレードプロセスを続行します。

タイトル: アップグレードウィザードRTSM履歴DBは[サイドバイサイドデータベースの準備] ページに記載されるべきではありません。(QCCR8D51968)

説明: サイドバイサイドアップグレード中のOMi 10.60アップグレードウィザードでは、データベース接続の手順で、手動でバックアップする必要があるスキーマの1つとして「RTSM履歴スキーマ」が一覧表示されません。

BSM 9.2xからOMi 10.60へのアップグレードはサポートされていないため、RTSM履歴スキーマはOMiのアップグレードとは無関係であり、バックアップは必要ありません。

タイトル: アップグレード: ステータスが「停止」である4つのHACサービスのみがプライマリDPSに表示されません。(QCCR8D51890)

説明: HA環境をOMi 10.12から10.60にアップグレード後、ステータスが「停止」である4つのHACサービスのみがプライマリDPSに表示されます。

回避策: プライマリデータ処理サーバーで、次の手順を実行します。

1. 高可用性サーバーを一覧表示します。

```
root@bsm-dps4 BSM]# opr/support/opr-jmxClient.sh -s localhost:4447 -r -bean  
'Topaz:service=hac-backup' -m listServers  
RMI URL = 'service:jmx:remoting-jmx://localhost:4447'  
<PRE>listServers result:</PRE><TABLE BORDER="1" STYLE="font:normal normal  
normal 10pt Arial" BORDER="1"><TR><TH>Server</TH><TH>Backup Server</TH></TR>  
<TD>bsm-dps4</TD><TD>bsm-dps3</TD></TR>  
</TABLE>
```
2. 任意のサーバーから別のサーバーにカスタマーサービスを移動させます。

```
[root@bsm-dps4 BSM]# opr/support/opr-jmxClient.sh -s localhost:4447 -r -bean
'Topaz:service=hac-backup' -m moveServices -a 0 bsm-dps3 bsm-dps4 ""
RMI URL = 'service:jmx:remoting-jmx://localhost:4447'
Operation finished.Return value is 'true'
[root@bsm-dps4 BSM]#
```

OMi

タイトル:SQLデータベースバージョンにCUが含まれている場合、スキーマ作成アクションが失敗します。(QCCR8D52490)

説明:CU (累積更新) を含んでいるSQL Serverがデータベースとして使用されている場合、OMi 10.60をインストールできません。

回避策:Hewlett Packard Enterpriseソフトウェアサポートからホットフィックスを手に入れます。

タイトル:エージェントがDPSで起動しない場合があります。(QCCR8D47298)

説明:OMiをインストールするときに、Operations Agentがデータ処理サーバーで起動しない場合があります。

回避策:OMiのインストール後にovc -startを実行します。

タイトル:[受信者] ページが開きません/受信者を追加または変更できません。(QCCR8D38263)

説明:[受信者] ページが開きません。または[受信者] ページは開きますが、受信者を追加または変更できません。

回避策:このエラーは、OMiのインストール時に、受信者の標準設定テンプレートがロードされなかった場合に発生します。この問題を修正するには、次の手順を実行します。

1. **[管理] > [RTSM管理] > [パッケージマネージャー]** にアクセスします。
2. **[サーバーにパッケージをデプロイ]** をクリックします (ローカルディスクから)。
3. **[追加]** をクリックし、BSMAalerts.zipファイルを選択して**[開く]** をクリックします。パッケージをデプロイします。

BSMAalerts.zipファイルをOMiシステムからローカルシステムにコピーする必要がある場合があります。

注: BSMAalerts.zipが再デプロイされる前に作成された受信者には有効な通知テンプレートがないため、一旦削除してからもう一度追加する必要があります。

タイトル:新しく作成されたイベントフィルターをイベント転送ルールに直接追加できません。

(QCCR8D51918)

説明:転送ルールに関する新しいイベントフィルターを作成すると、そのイベントフィルターは[イベントフィルターの管理]パネルで選択されますが、[選択]をクリックしても転送ルールに追加されません。

回避策:新しいフィルターの作成後、[イベントフィルターの管理]サイドパネルを閉じ、[イベント転送ルールの新規作成]ダイアログボックス内の[イベントフィルター]ドロップダウンリストからフィルターを選択します。

タイトル:ダウンタイム管理: UI [ダウンタイム管理] の表示権限を持つユーザーに、「権限のないユーザー」であることを示すエラーメッセージが表示されます。(QCCR8D51917)

説明:[ダウンタイム管理]には、表示権限とフルコントロール権限の2種類の権限が存在します。

表示権限を持つユーザーとしてログオンした場合、[ダウンタイム管理]のUIは開かず、「権限がない」ことを示すエラーメッセージが表示されます。

回避策:[ダウンタイム管理]のUIにアクセスするには、フルコントロール権限を持つユーザーとしてログオンしてください。

タイトル:OMi 10.60とOO 10.70の統合に失敗します。(QCCR8D52023)

説明:OMi 10.60とHPE Operations Orchestration 10.70との統合は機能しません。

回避策:Hewlett Packard Enterpriseソフトウェアサポートからホットフィックスを入手できます。

タイトル:新しいHTMLブラウザーのショートカットメニューに[ランブックの起動]がありません。

(QCCR8D52363)

説明:新しいHTMLイベントブラウザーでは、[ランブックの起動]オプションを利用できません。

回避策:(HTMLイベントブラウザーではなく)従来のイベントブラウザーの[ランブックの起動]オプションを使用してください。

タイトル:SiS統合: ハードニングされていないSiS 11.33はOMiと統合されません。(QCCR11124015)

説明:SiteScope 11.33サーバー(TLS以外のセットアップ)をOMi 10.60(TLSセットアップ)の接続サーバーとして設定した場合、接続されたサーバーのステータスはfailedになります。

SiSのerror.logには、次のような複数のエラーが記録されます。

```
2017-01-13 07:52:34,307 [http-bio-8080-exec-5] (ApacheHttpUtils.java:488) ERROR -
problem while sending data to URL: https://<host>:443/topaz/topaz_api/api_
invoke.asp error:URL: https://<host>:443/topaz/topaz_api/api_invoke.asp,
host:<host>, port:443, UsingProxy: false, isHTTPS(SSL): true,
```

```
javax.net.ssl.SSLHandshakeException:Remote host closed connection during handshake,  
currentRetry:0
```

回避策:HTTPS以外のSiteScopeはSSLv3を介してHTTPS OMi 10.60との通信を試行しますが、これは OMi 10.60のTLS構成によって許可されていません。そのため、Apacheは接続の試行を停止します。

回避策として、ApacheでSSLv3を許可します。

1. <OMi_install_dir>\WebServer\conf\extra\httpd-ssl.confを開き、次の構成行を変更します。

```
SSLProtocol all -SSLv3 -TLSv1 -TLSv1.1
```

上記の行を次のように変更します。

```
SSLProtocol all -TLSv1 -TLSv1.1
```

2. Apache Webサーバーを再起動し、接続サーバーを再作成します。
-

OMiパフォーマンスエンジン

タイトル: クラスタに新しいノードを追加し、再調整操作を実行すると、PEでデータ消失が発生します。(QCCR1A188544)

説明: OMiパフォーマンスエンジンクラスタに新しいノードが追加された場合、ストリーミングされたデータは遅延するか、送信後に失われます。

回避策: この問題を解決するには、再調整操作後にすべてのノードでPEリスナーサービスを再起動します。手順は次のとおりです。

1. sshまたはtelnetを使用して、OMiパフォーマンスエンジンノードにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
/opt/0V/bin/ovc -restart pelistener
```

3. クラスタ内のすべてのノードで手順1と手順2を繰り返します。
-

Operations Agent

タイトル: サービスプロセスモニタリングポリシーのインスタンスパラメーターに複数の値が割り当てられている場合、トリガー時に異なるインスタンスの値が混合されます。(QCCR8D50703)

説明: サービスプロセスモニタリングポリシーのインスタンスパラメーターに複数の値が割り当てられている場合、ポリシーのトリガー時に値が混合されます。

回避策: ポリシー内の [標準設定] タブを使用してメッセージ属性を設定する代わりに、ポリシールール内にある標準設定のアクションを上書きする機能を使用してイベント属性を設定します。

タイトル: インスタンスパラメーターが設定されたポリシーが機能しない場合に、その理由を示すエラーメッセージが表示されません。(QCCR8D50613)

説明: インスタンスパラメーターが設定されたサービスプロセスモニタリングポリシーは、監視対象の Windows サービスが停止しても反応しません。ただし、単純なパラメーターが設定されている場合は、この変化に対して反応します。インスタンスパラメーターが設定されたポリシーが機能しない理由を示すエラーメッセージは存在しません。

回避策: 説明に記載されているこの問題の回避策は、パスワードをメッセージ属性として使用しないことです。ポリシーの使用に関するほかのエラーを確認するには、ログファイルを参照してください。

ローカリゼーション

HPEは、Operations Manager i 10.60 のローカライズされたソフトウェアを以下の言語で提供します。

- 英語 en
- フランス語 fr
- ドイツ語 de
- 日本語 ja
- 韓国語 ko
- ロシア語 ru
- 簡体中国語 zh_CN
- スペイン語 es

ドキュメントのフィードバックの送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されている場合、上記のリンクをクリックすると、件名の行に次の情報を含む電子メールウィンドウが開きます。

リリースノート (Operations Manager i 10.60) に関するフィードバック

フィードバックを電子メールに追加し、[送信] をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、ovdoc-asm@hpe.com 宛にお送りください。

ご意見ありがとうございます。



Go OMi!